

学び の場

研究室・ゼミナールレポート

出会いのステージで

経済学部 坂本雅士ゼミナール



経済学部会計ファイナンス学科4年次 横川 隆志

私たちが坂本ゼミナールは、税務会計論を研究テーマとしています。2年次に税法の基本原理を理解することに主眼を置き、同時に税務会計を研究していくうえで必要な簿記、会計学の勉強にも力を入れて取り組んでいます。3年次にはそれまで培った「勉強」による知識を「研究」へと発展させるべく共同研究を行います。また、2・3年次を通して全国大学対抗簿記大会への参加、特別講座での税理士、公認会計士の方との交流など幅広い活動を続けています。

ここで、これまで坂本ゼミナールで過ごした時間を振り返ってみようと思います。

「出会いの場」

「サークルでもなくアルバイトでもない、大学生活の中心となる場所がほしい。」この思いから入室した坂本ゼミナール。「ゼミは研究の場であると同時に“出会いの場”です。」ゼミ入室時、初顔合わせの際先生がおっしゃった言葉です。この言葉通り、2年次には多くの出会いを経験しま



共同研究風景

した。体育会の活動や資格取得など様々なフィールドで活躍し、個性を持った仲間との出会いです。多様な価値観があるからこそ、一つの組織として活動していくことの面白さを深く感じました。また、人に限らず、全国大学対抗簿記大会優勝という明確な目標と、それを達成できた時の喜びとも出会うことができました。

「勉強から研究へ」

3年次になり、共同研究が始まりました。先生は日頃から「与えられたテキストに従って知識を習得することは『勉強』であり、『研究』とは勉強で得た知識をもとに、未知の真理を追求する知的作業です。」と私たちにおっしゃっていたのですが、このことを真には理解していなかったことを、共同論文の作成を通し私たちは知ることになりました。毎週火曜日のゼミの時間には、夕方から夜の10時頃まで各ゼミ生が執筆した論文の読み合わせとプレゼンの予行演習が行われ、それ以外の日は図書館に籠り、文献を読み漁る日々を過ごしました。その結果、満足のできる論文を完成させ、オープンゼミでのプレゼンには、真剣なまなざしで発表を聴く大勢の1年次生の姿がありました。打ち上げで飲んだビールの味は今も忘れません。

「変化していくゼミ」

坂本ゼミナールは2002年に誕生した歴史の浅いゼミです。であるからこそ、簿記大会への参加、特別講座の実施、OB会の開催など次々と新しいことへ取り組んでいけるゼミなのです。坂本ゼミの今後にご期待下さい！



2006年度春季簿記大会にて